

科目ナンバリング		G-LAS13 80012 LJ90										
授業科目名 <英訳>		レジリエントな社会づくりのイノベーション :展望・自由提言 Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal					担当者所属 職名・氏名		医学研究科 教授 今中 雄一			
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)		健康・医療系			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	講義（メディア授業科目）			
開講年度・ 開講期	2025・通年		曜時限	金5			配当学年	大学院生	対象学生	全学向		
(医学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)												
[授業の概要・目的]												
人口減少・超少子超高齢社会における生産年齢人口の減少や社会保障財政のひっ迫、地域格差の拡大など社会の安定化への脅威、また、風水害や地震などの自然災害、大規模な人災、サイバーテロなど様々な脅威が、より露わとなってきた。また、COVID-19のパンデミックを契機に、社会、経済、医療、国民の生活や考え方は、従来のあり方とは異なってきた。並行して、遠隔会議の普及、科学技術やその応用方法、生活のあり方、思考などにもイノベーションが生まれてきている。予測しがたく変化が大きく不確実なこの時代に、どのようなイノベーションが生じており、今後、どう展開していくか、公衆衛生・医療、経済、情報、心理、社会、環境、都市・まち、行政・法律制度、思想・倫理などの諸側面から包括的に考え、最新の潮流も踏まえ展望し、ポストコロナのより充実した社会の構築・展開に向けて、自由闊達に提案し議論を深める。												
健康に関する知識が不十分、専門領域ではないと思っても、大丈夫です。専門領域や職種に関係なく聴講可能です。												
【コ・オーガナイザー】近藤 尚己（医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学 教授）、長尾 美紀（医学研究科医学専攻 臨床病態検査学 教授）、西浦博（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授）、今中雄一（医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授、オーガナイザー）												
[到達目標]												
健康・生活への脅威に強いレジリエントな社会づくりと、関連するイノベーションについて、多側面から包括的に具体的に考えることができるようになる。												
[授業計画と内容]												
通年、金曜5限(およそ6月～12月)、単位数：2単位 予定（タイトルなど改訂・変更ありうる）												
・第1回 6月20日 今中 雄一（医学研究科 社会健康医学系専攻 医療経済学 教授） 「ポストコロナのレジリエントな保健医療・社会システム」												
・第2回 6月27日 浅利 美鈴（総合地球環境学研究所 教授） 「ポストコロナの地球循環型社会～京都の里山より～」												
・第3回 7月4日 西浦 博（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授） 「新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学」												
・第4回 7月11日 角山 雄一（環境安全保健機構放射線管理部門 准教授） 「放射線リスク研究の立場から考えるレジリエンス社会」												
・第5回 7月18日 谷 直起（経済研究所 准教授） 「超高齢化時代における日本の財政とデータを活用した政策立案に向けた取り組み」												
・第6回 10月3日 黒田 知宏（医学部附属病院 医療情報企画部 教授） 「ポストコロナの医療												
レジリエントな社会づくりのイノベーション:展望・自由提言(2)へ続く↓↓↓												

DX」

- ・第7回 10月10日 諸富 徹 (経済研究科 教授) 「脱炭素時代のDXと経済」
- ・第8回 10月17日 長尾 美紀 (医学部附属病院 感染制御部 教授) 「アカデミアと地方自治体で取り組む感染症対策」
- ・第9回 10月24日 牧 紀男 (社会防災研究部門 教授) 「自然災害にレジリエントに備える」
- ・第10回 10月 31日 内田 由紀子 (人と社会の未来研究院 社会心理学・文化心理学 教授) 「文化心理学から見た幸福と健康」
- ・第11回 11月 7日 児玉 聡 (文学研究科倫理学研究室 教授) 「パンデミックの倫理」
- ・第12回 11月14日 依田 高典 (経済学部・経済学研究科 教授) 「行動経済学と感染予防行動」
- ・第13回 11月21日 近藤 尚己 (医学研究科 社会健康医学系専攻 社会疫学 教授) 「社会疫学のエビデンスから考えるレジリエントな社会づくり」
- ・第14回 11月28日 鹿島 久嗣 (情報学研究科 知能情報学専攻 教授) 「prePrint時代における機械学習・AIの活用と意思決定」
- ・第15回 12月 5日 広井 良典 (人と社会の未来研究院 公共政策・科学哲学 教授) 「人口減少社会のデザイン」
- ・第16回 12月12日 複数教員 「まとめ：健康・生活への脅威に強い社会づくりについて」

(注) メディア授業(同時双方型)で行うが、教室に集まる者はPCを持参してオンラインにも接続する。

*予定は変更となることがあります。初回に予定を説明します。

[履修要件]

- ・80%以上の出席を必須とします。
- ・最終回の議論への参加を重視します。

[成績評価の方法・観点]

日々のコミットメント50%、レポート50%

[教科書]

使用しない

[授業外学修(予習・復習)等]

特に無し。

[その他(オフィスアワー等)]

京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可

問い合わせ等は、
医療経済学教室教務 <heqm-kyoumu(at)mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>
へ連絡してください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

レジリエントな社会づくりのイノベーション:展望・自由提言(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]